



ピンクの海藻「無節サンゴモ」の上に付くエゾアワビ稚貝（大きさは5ミリメートルほど）



第14回

ふたたびアワビの話です！

ちょうど1年前の私の担当回で、アワビの話を行いました。三陸を代表する海の幸「アワビ」ですが、生き物としてのアワビには、おそらく多くの皆さんがご存じないすばらしさ、不思議がまだまだたくさんあります。30年近くにわたってアワビの研究をしてきた私としては、生き物としてのアワビについて、是非もっと多くの皆さんに知っていただきたい。アワビを獲っておられる漁師さんにも、アワビの生態を詳しく理解していただければ、長期的に効率良くアワビを獲る方法が見つかるかも知れません。

アワビは「時化」が来ると産卵する！

アワビには雌と雄がいます。雌が卵を雄が精子を放出して、それらが海中でくっつくことで受精が行われますが、受精を成功させるためには、雌雄がほぼ同時に産卵、受精を行う必要があります。サケの産卵風景に見られるように、魚などの多くは配偶行動と呼ばれる一連の「儀式」を行うことによって、雌雄が寄り添って同時に産卵、受精を行います。しかし、アワビの間ではそのような配偶行動はあまり見られず、

その代わりに、何らかの環境変化を「合図」として、雌雄が同時に産卵、受精を行いません。三陸沿岸に住むエゾアワビは、夏の終わりから秋にかけて、低気圧の通過などによって海がしけると一斉に産卵、放卵を行います。時化（しげ）がいつ起こるか、どのくらいの頻度で生じるかによって、アワビが産卵を行う時期や規模も変わっているのです。たくさんアワビが集まって住んでいることも、受精には重要な要素です。獲りすぎて密度が薄くなってしまったり、子供が増えにくくなってしまう。

アワビの幼生が選ぶピンクの海藻「無節サンゴモ」

海中で受精した卵から0.3ミリほどの小さな赤ちゃんアワビ（幼生）が誕生するわけですが、この幼生は海中をただようプランクトンです。1週間程度は浮遊した後、一度海底に降りて「稚貝」になりますが、一度海底にくっついて稚貝に変態すると、そう簡単に遠くへ移動することはできませんので、幼生がどこに降りるかアワビにとつてすごく大切なことです。アワビの幼生は、「無節サンゴモ」と呼ばれるピンクの海藻の上に好んで付くのです。無節サンゴモは、石や海藻の表面をおおうようにして増える、別名「石灰藻」とも呼ばれる非常に硬い体を持つ海藻です。アワビ稚貝は2~3センチに成長するまで無節サンゴモの上で暮らし、それからコンブなどの普通

の海藻が生えている場所に移動します。アワビの子ども達が住んでいる場所は、コンブなどの海藻が生えていない、無節サンゴモにおおわれた岩や石の表面です。不毛な場所に見えますが、実は重要な場所なのです。アワビを増やすために海底をコンブだらけにすれば良いというものではないのです。稚貝が住む場所がなくなってしまうからです。



かわむら ともひこ
河村 知彦
(東京大学大気国際
海洋研究所沿岸海洋研究センター長・教授)

1963年東京生まれ。専門はアワビ類など浅い海の底に住む無脊椎（せきつい）動物の生態学。著書に「アワビって巻き貝!? 磯の王者を大解剖」（恒星社厚生閣）など。

大槌文化ハウス（中央公民館2階）で開催されている「東大教室@大槌」で、東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターの研究者が定期的に講演を行っています。今回は青山潤教授（魚類生態学）による「海の教室―海洋生物資源の保全と利用」です。詳しくは本号（18ページ）をご覧ください